そして、十八日（木）、三日目の朝が来た。
僕はいつもの様に、家を出た。
観月橋を渡り、いつもの電車に乗った。
まったく、まわりの事に注意を向けず、
どんな天気で、川がどんな様子なのかも、
全く、僕は気がつかなかった。
僕の乗っている宇治線の電車が
中書島の駅に近づいた時だった。
中書島は本線から宇治線が分岐する駅だ。
大阪方面からの本線を、三条京阪行きの各駅停車が、
中書島の駅に、すごい勢いで流れ込んで来るのが見えた。
その電車は、いつも僕が乗る急行の、
ひとつ手前の、三条京阪行き各駅停車である。
その電車から、人がたくさん、ゾロゾロと、
駅のフォームに、降りている様子を無意識に僕は見ていた。
「いつも彼女が乗っているはずの電車だなあ。」
そう思いながら、僕は見ていた。
そして、その電車が、フォームを発車する時、
今度は、僕の電車が、ゆっくりと、駅に着いた。

107 僕の頭の中はまた真っ白になった・・・・・・470